



「千春」の小屋に絵を描く地域の子どもたち



農業担当の宮崎祥吾さん



所長の二男拓也さんは生活指導員を務める

富山県砺波市

福祉の概況

- ◆富山県西部の市。庄川の流域に開けた扇状地、砺波平野の中心。屋敷林と切妻屋根の農家が基石を散りばめたように点在する散居村の美しい風景は、日本の原風景を彷彿とさせる。チューリップの球根の生産で有名。周辺市町村と比べて人口増加率が高く、大型の郊外型商業施設の出店が多い。日本有数の住みよさを誇る。面積は126.96km²。
- ◆砺波市の総人口は49,917人、65歳以上人口12,516人で、高齢化率は25.07%（12年10月末日現在）。要支援・要介護認定者は合計2,270人。要支援1 = 124人、要支援2 = 245人、要介護1 = 406人、要介護2 = 512人、要介護3 = 350人、要介護4 = 302人、要介護5 = 331人（12年9月末日現在）。

主な相談窓口

- ◆高齢介護課介護係 ☎0763-33-1111
- ◆地域包括支援センター ☎0763-33-1111
- ◆南部サブセンター ☎0763-32-7294
- ◆北部サブセンター ☎0763-33-6610
- ◆庄東サブセンター ☎0763-37-1550
- ◆庄川サブセンター ☎0763-82-1902
- ◆在宅介護支援センター
- ◆砺波市やなせ苑 ☎0763-32-3943
- ◆砺波ふれあいの杜 ☎0763-33-0827
- ◆ケアポート庄川 ☎0763-82-6861

103歳のおばあちゃんが1か月ポピー村のお泊りの部屋で過ごし、旅立った。医療との密接な連携だ。高岡のポピーともつながり、今年の正月は合同で、3人がお祝いした。

デイには障がい者ケアの登録者が7名いる。その人たちの就労を実現するため、自治会長さんの畑を借りて、12年7月から自然農法による農業事業に取り組み始めた。宮崎所長の長男祥吾さん（29歳）が手を挙げた。レタス、キャベツ、白菜、大根、ジャガイモ、ニンジン、サツマイモ、ソラメメなどを栽培。アレルギーや化学物質過敏症に悩む子どもたちの食べ物も供給するのが大きな狙いだ。デイの食卓にも上がり、自分たちが作ったものを当たり前前に食べる。今後、宅配や移動販売も視野に入れている。

宮崎さんの人脈から手に入れた雄ヤギ（千春）は、吠えないし噛まないから犬よりいい。地域の子ともたちが「千春」と言って遊びに来る。学校が終わった後や土日はにぎやかだ。保

育園や幼稚園に呼びかけ父兄と一緒にイベントを開催する。庭に接する道路にはコミュニティバスの停留所ができ、バスは停車し千春を眺める。いまや千春の存在は地域のアイドルだ。宮崎さんは農業に子どもたちが参加することも期待する。

利用者が限定されてしまう小規模多機能を超え、もっと広く定員などの制限なく利用者のニーズに応えたい。要介護4のAさんは宮崎所長の20年来の知人の兄さん。広島市の病院から退院を余儀なくされ、引き受けることにした。以来1年半、茶の間横町とポピー村で寝泊まりしている。「笑顔が戻り兄は今が一番幸せ」と、知人も感謝感激だ。

さらに宮崎さんには夢がある。シェアハウスの実現だ。若者、高齢者、障がい者など様々な人が混ざり合い、お互いに助け助けられながら生活するハウス。県外から移り住むのいい。現に希望者がいて空き家を借りてスタートする予定だ。将来は地主さんが快く貸してくれるデ

イに隣接する広大な土地に建てたい。県の職業訓練の委託事業であるヘルパー2級養成講座（定員20名、3か月、年間4回）は地域のつながりや就労に一役買っている。

いろいろな人からの応援があった。労働者協同組合の組合員をはじめ地域の人や宮崎さんの多彩な人脈から授かったものは大きい。高岡ポピーの移転から始まりポピー村の改修など資金調達の大きな壁を乗り越えてきた。宮崎さんの前向きなためまい行動力は驚きの連続であった。

ドキュメント
百人百色の介護

■兵庫県尼崎市

杉原進さん（79歳）・智子さん（46歳）

野田明宏 文・写真（フリーライター）

父を助けたい

父娘漫才で閉塞感なんかぶっ飛ばせ

「関西地方で1番のアホは誰ですかー？」

「おまえや」

「エッ!? 私?」

「ほんなら、2番目のアホは誰ですかー?」

「わしや」

「1番と2番が逆さまと違いますか? お父ちゃん」

「うるさい。もう死ぬ」

「エッ! 私が死んだら困るでしょう? 誰がお父ちゃんの面倒看はるんですか?」

「鈴代がおる」

DATA

◆杉原進さんの状況◆

- ◆要介護 5
- ◆主な疾患 脳梗塞 高次脳機能障害 左片麻痺
- ◆利用介護保険サービス 訪問介護 訪問看護 訪問リハビリ 通所リハビリ 介護ベッドレンタルなど

JR尼崎駅前にあるケーキ屋さんで。「チョコケーキに決まってるやん」



JR尼崎駅から帰宅。
車椅子へ移乗する進さん。「ヨッコラショっつ！」



「オレ、オトコマエやる?」
オヤツタイム。「食べながら父娘漫才してますねん」

兵庫県尼崎市

福祉の概況

- 兵庫県の南東端。大阪湾に面し西宮・伊丹・豊中・大阪の各市と接する人口密度は県内最高。阪神工業地帯の中心部でかつては公害問題を抱えた。中核市指定。大阪のベッドタウンとしての要素は薄く、拠点性がある。南部では工場用地の積極的再利用や再開発事業が加速している。人口は2008年、37年ぶりに増加に転じた。面積は49.97km²。
- 尼崎市の総人口は457,216人、65歳以上人口107,140人で、高齢化率は23.4%（12年3月末日現在）。要支援・要介護認定者は合計22,307人。要支援1 = 4,117人、要支援2 = 3,534人、要介護1 = 3,444人、要介護2 = 4,143人、要介護3 = 2,767人、要介護4 = 2,215人、要介護5 = 2,087人（12年3月末日現在）。

主な相談窓口

- ◆健康福祉局福祉部 高齢介護課 ☎06-6489-6356
- ◆地域包括支援センター
- 中央西 ☎06-6430-5615
- 中央東 ☎06-4868-8300
- 小田北 ☎06-6498-5111
- 小田南 ☎06-6488-0180
- 大庄北 ☎06-6430-0511
- 大庄南 ☎06-6417-0125
- 立花北 ☎06-6422-3333
- 立花南 ☎06-6428-7112
- 武庫東 ☎06-4962-5308
- 武庫西 ☎06-6438-3955
- 園田北 ☎06-6498-0826
- 園田南 ☎06-6494-8087

アマネさんって、1人で39人ほどの利用者さんを看ていますよね? となると、父ちゃんは39分の1の存在でしかない気がいたします。1分の1にしたい。父ちゃんを、丸ごと私が面倒みてあげられるやないですか」

ヘルパーさんは3事業者から4人が入る。その4人、智子さんが指名しているので固定している。訪問看護、訪問リハビリも同じ人がやってくる。通所リハビリへは、進さんが待てないことと暴言があるので智子さんも一緒にいる。ベッドやスロープはレンタルだ。

さて、10月3日午前。暑すぎる夏も涼しさが漂いはじめていた。智子さん、進さんの好物であるチョコケーキを買い出しにJR尼崎駅前まで。もちろん、進さんも一緒だ。このチョコケーキ、午後のオヤツタイムにムース状に変形され進さんの口から胃の中へ。この日、調子も良く進さん自ら手を口に運ぶことも多かった。食後、直ぐに歯磨き。舌も誤嚥性肺炎予防で磨く。

午後、じっとしてられないのか、進さんが声を張り上げる。

「ヨッシャー! 農業公園へいこか?」

車に乗車し出発進行。また父娘漫才が始まる。「右へ行け」

「エッ? 右へ曲がると対向車にぶつかりますよ」

「撃ってしまえ」

「私、ピストル持ってませんけど?」父を助けない。

公園を2人で歩く。空は、秋の蒼だ。

「私、『あんた変わってるね?』って度々言われます。で独りで頑張れるん?」って度々言われます。施設へ父ちゃんを預ければ済むことやん。皆さん、そんな風に心配してくれはるんです。けど、父ちゃんと一緒やと楽しいんですよ。今なら、ハッキリと言ひ切れます」

一寸はにかんで、

「父ちゃんの介護が生き甲斐や」

「ヒェー!!! さつきは小百合さんやったのに。ぎょうさんオンナの人がいて、ええねえ!」

「あたりまえや」

「ほんなら私、もう要りませんよねえ?」

「……ここに、おり」

兵庫県尼崎市中心部から少し離れた住宅街の一角。こんな父娘のやりとりが毎日、24時間、在宅介護最前線で続けられている。

父・杉原進さん79歳。現在、要介護度は5。脳梗塞に始まり、高次脳機能障害と脳血管性認知症。介護者である長女の智子さんは46歳。2人揃って毎日が漫才だ。とはいえ、ここまで明るく・楽しい介護できるまでの過程は並大抵ではなかった。進さんが脳梗塞で倒れたのは2005年。利き腕に麻痺が残らなかったのと、失語しなかったのが不幸中の幸い。とはいえ、智子さんは長く続けてきた仕事を投げ出し、進さんの介護に専念するようになった。智子さんに妹はいるものの他県に生活基盤を持っており、お母さんも07年に他界している。

「お父ちゃんを助けられるのは、私しかおらん」

覚悟の在宅介護が始まった。その2年後、進さんに認知症の症状が現れた。

「メシ、まだかー」

ついでさつき夕食を食べ終えたばかりだというのに。そうこうしているうちに、進さんの暴言が顕著になった。更には、叩く。物を投げつける。夜も眠ることなく智子さんに当たった。こんな夜もあった。午前2時半にトイレ介助。一段落し、やっと眠れると思った矢先、進さんが

ベッド柵をガタガタと揺さぶり、そばに布団を敷いて寝ている智子さんに枕を投げつけた。不穏が頂点に達し、

「おまえはオレを置いて帰るんか? 警察を呼べ」

不穏がおさまったのは、もう外が明るい午前6時だった。覚悟はしていたものの、智子さんの想像を遥かに超えた進さんの暴力に、途方に暮れる日々を彷徨った。

進さん、08年ころから誤嚥性肺炎を繰り返すようになった。医師からは当然、胃ろう造設を薦められた。しかし、右腕がしつかりと動く進さんには、胃ろう抜去の可能性大。智子さんも、胃ろうそのものを避けたい強い意志があった。

「父ちゃんの食事介助は全て、私がやるねん」

他人の食事介助で誤嚥性肺炎になれば後悔するから、と。もちろん、嚥下食の勉強は必至で独学。今は、食事介助も手慣れたもんだ。

実は進さん、内科の薬以外は眠剤しか飲んでいない。眠剤効果はバッチリ。喋る話すのだから漫才効果なのだろう。

「本当は、眠剤も使用したくないんです。けど、父ちゃんがしつかりと眠ってくれたら私も眠れます。お互いのためなんです。元気で、楽しく在宅介護を継続するために」

ところで、智子さんはマイケアプランの実践者だ。そこには頑固な拘りがあった。

「尼崎市には10人前後と聞いてますが、マイケアプラン者がいてはるそうです。他の方はどういう経緯か知りませんが、私の場合、父ちゃんをマンツーマンで見て上げたかったです。ケ